

地域支援だより

きらりNet



令和5年3月15日

第131号

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

ICTの活用について～なぜ、何のために～

一人一台タブレット端末配付により、児童生徒の実態に応じて様々なICT活用方法が提案されています。大切なことは、「何のために使うのか（目的）」を明確にすること、児童生徒が「できた」「分かる」を味わえること、そして、「楽しく」活用することです。

本稿では、生徒の表現手段を生かしたICT活用により、音楽科の楽器演奏に取り組んだ実践を紹介します。

本生徒が楽器演奏に取り組むときには、教師と一緒に楽器を持ち、生徒の表現手段である『まばたき』に合わせて楽器を鳴らしていました。しかし、教師が生徒のまばたきを見ながら演奏する場合は、どうしても生徒のイメージしているリズムとズレが生じます。また、教師と一緒に楽器を鳴らすことで、生徒の意思で演奏をしている、という印象を与えにくいという悩みもありました。

そんな折、「iOAK（アイ・オーク）」というアプリの存在を知り、活用することにしました。

「iOAK」は App Store で取り扱っているアプリで、購入可能です（320円）。「iOAK」は端末のカメラを利用して人の動きを可視化したり、人や物のわずかな動きを感知してスイッチを操作したり、音を鳴らしたりできるアプリです。カメラの画面を長押しして四角い枠を表示させ、その枠の中の動きを感知させることで非接触型スイッチ（エアスイッチ機能）としても利用できます。

本生徒は、曲に合わせてまばたきでリズムを刻むことができることから、まばたきをするたびにベルの音や、たいこの音、刀の音などが鳴るように設定しました。（iOAK にあらかじめプリセットされている音のみ使用可能）この学習を繰り返してうちに「まばたきをする」と音が鳴る」という因果関係が分かり、音を鳴らすことを楽しむように、まばたきをして演奏表現をするようになりました。学習発表会では、iOAK を活用して見事に演奏することができました。

（文責：門間 洋平）



生徒の顔が映る位置に
タブレット端末を固定する。



画面を長押しすると緑の四角い枠が出現。動きを感知させたい位置に動かすことができる。枠の大きさや個数も自由に変えることができる。本生徒は、まばたきを感知して音が鳴るようにした。



ICT 機器を活用して友達と交流しよう <訪問指導：中学部>

日頃自宅で学習している訪問学級の A さんの、学校の友達とのオンライン交流学習「すごろくゲーム」を行った取組です。使用したすごろくは、小型扇風機に、1～6の目を描いたイラストを取り付けたルーレット型です。（写真1は使用機器と仕組み）当日の A さんは、友達の応援に応えるように目を動かしてルーレットを回し、自分の駒が進む様子を楽しんだり、友達の駒が追いかけてくる様子を見つめて勝敗の結果を心待ちにしたりしていました。

写真1 Aさんの目の動きを「iOAK」が感知。

小型扇風機に「MaBee」電池を入れ、「iOAK」と連動させることで、目を動かすと小型扇風機のルーレットが回る。（「MaBee」電池：乾電池で動く玩具を、スマホ専用アプリでコントロールできる製品）

オンライン学習では、生徒自身が主体的に活動するために手立ての工夫が必要です。本稿で紹介したアプリの活用は、訪問学級の生徒の主体的な活動参加の方法の一つとして有効であると考えます。（文責：簾内香緒里）



教育専門監のコーナー

《深い学びの種を育てる問いのデザイン》

【問いのデザイン1】 制約をつけ、具体的に問いかける

尋ねたいことを具体的にイメージしてもらうために、質問に関連してイメージしやすいことを最初に聞き、段階を追って質問をしていきます。

- ① あなたは、今日、朝ご飯に何を食べましたか？
制約 過去の経験を探索させる問い
- ② 今月食べた最も美味しかった朝ご飯は何ですか？
制約① 過去の経験を探索させる問い
- ③ あなたが考える豊かな朝食とは何ですか？
制約② 制約
- ④ 朝ご飯について自由闊達に議論してください。
制約 価値観を探索させる問い

関連する問いを探索させる問い

【問いのデザイン2】 問いの「深さ」を決める

問いによって、答えに到るまでに必要な視点や時間は異なります。これが「問いの深さ」の違いとなります。深さを決める視点を紹介します。

- 問うためにどれだけの視点や視座が関わるのか
- 人によって出す答えがどれだけ多様になるのか
- 仮の答えを出すためにどれだけ時間が必要なのか

参考：ベネッセ 教育総合研究所 教育フォーカス〈特集14〉
「問いのデザイン」でアクティブ・ラーニングの「種」を育てる

『学ぶ事への自分の理由』

教師の問い掛けや関わりに、道具を操作し応え、進めるICTによる訪問学級の実践。大切にしているのは周囲のヒト、モノ、コトへの興味と好奇心。相手の言葉に興味をもつ。相手と自分の間に置かれた手段に好奇心をもつ。生徒は「自分事として答えを探したい」と思える問い掛けを頼りに、自身に目を向け、情報を探し、拾い上げ、知識として編みあげていきます。視野の広がりと思考の深まりを図るヒト、モノ、協働で解決に取り組むべきコト。周囲のヒト、モノ、コトとの相互交渉が関係性に広がりをもたらします。役割を担う中で自分の思いが伝わったことを実感しながら、かけがえのない存在としての自分に気付いていきます。自らの行為が周囲に影響を与え、自分の思いが伝わる学びの中で、先を見通し、応えるすべを身に付けていきます。

〈文責：二階堂 悟〉

教頭 近藤 郁 地域支援部主任 大友 明希子

住所：〒010-1409 秋田市南ヶ丘1丁目1番1号

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018（889）8573 FAX：018（889）8575

「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。



<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

